

学習成果の自己評価〔教養教育〕

共通教育の実施は教務部が担当している。教務部では毎年「共通教育科目」カリキュラムの見直しを行い、教授会での審議を経て学長が決定している。令和 6 年度は「ボランティア論」と「海外文化研修」の内容を改めた。「ボランティア論」については実践的内容を強化して令和 7 年度より「ボランティア入門」として展開する。また、「海外文化研修」についても研修内容を見直し、初めて韓国ソウルの西京大学における研修プログラムを導入した。

令和 6 年度、「共通教育科目」として 19 科目を置き、卒業に必要な単位数は 8 単位以上とし、必修は「人間と仏教」(2 単位)「聖和総合教育」(2 単位)で、選択科目 17 科目を置いている。本学における「共通教育科目」の目的・目標に沿った科目配置に努め、時代に即応し、学生のニーズにも配慮している(提出-1)。

①「人間と仏教」と「聖和総合教育」を全学生の必修科目としている。

「人間と仏教」は釈尊の教えの根幹である自他を慈しむ「慈悲」の心とお互いを支えあう「和」の精神を養うために、導師の講話とともに毎時間座禅によって自己を見つめる時間を設けている。「聖和総合教育」では、「人間と仏教」とともに、建学の精神のもとに自己と他者を共に慈しみ尊重する心を養い、その実践も含め社会に貢献する生き方を学ぶ授業として位置づけている。豊かな人間性を育む生き方について考え、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高めることを目標としており、本学の特色ある科目である。少人数のゼミを基礎としながら、学年全体での取り組みを設けるなど、多彩な形式で展開している。

②社会人としての一般教養を養う科目として、「文学入門」「心理学入門」がある。これらは人とその文化を理解しコミュニケーション能力を向上させるためのものである。

一方で社会の仕組みを理解するための「暮らしの中の憲法」「経済のしくみ」、身近な科学や環境に興味を持ち、論理的思考方法を学ぶ「暮らしと科学」「環境と自然」を設置している。

③働くことの意味を考え、自分の人生を自分で選択することの重要性について理解を深める「ライフデザイン総合」を設置している。「ボランティア論」「社会福祉概論」は社会貢献を具体的な形で考える科目である。講義形式であった「ボランティア論」については、令和 7 年度よりボランティア実践を授業に組み込んだ「ボランティア」に改めることを決定した。

④国際化に対応するため、「海外文化研修」を設けている。平成 18 年度より開講し、以後フランス、イタリア、オーストラリア、ハワイ、タイ、韓国、台湾でほぼ毎年実施してきた。しかし、令和元年度以後はコロナ禍での実施見送り、海外治安の悪化、研修費の高騰などがあり、令和 6 年度の再開を機に内容の一新を図って検討を加え韓国の大学での研修プログラムを導入した。このことにより安定的に質の高い海外文化の研修が行えるようになったと考えている。

語学に関する科目としては基礎的な「英語コミュニケーション」「フランス語入門」「韓国語入門」を置いている。

⑤心身の健全な育成の観点から、健康に暮らすことを学ぶ「体育理論」「健康スポーツ」を設置している。

⑥情報に関する科目としては「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を設置している。ビジ

ネスや保育実務に役立つツールとしてのコンピュータを総合的に活用する方法を学ぶ。

＜令和6年度「共通教育科目」履修者数及び単位取得率＞

共通教育科目	キャリア開発総合学科				保育学科				履修者数合計
	1 年		2 年		1 年		2 年		
	履修者数	単位取得(%)	履修者数	単位取得(%)	履修者数	単位取得(%)	履修者数	単位取得(%)	
聖和総合教育（必修）	124	100	1	100	66	100			191
人間と仏教（必修）	124	99			66	100	1	100	191
文学入門	19	95							19
心理学入門	71	96	7	100					78
ボランティア論	11	82	1	0					12
社会福祉概論	25	100	2	100					30
暮らしの中の憲法			4	75			84	100	88
経済のしくみ			16	100					16
ライフデザイン総合	12	83							12
暮らしと科学			13	92					13
環境と自然			14	100					14
英語コミュニケーション	13	85	3	67	66	100			82
フランス語入門	6	100	1	100					7
韓国語入門	42	90	4	100	2	100			48
体育理論	6	100	2	100			84	96	92
健康スポーツ	8	88	1	100			84	100	93
情報処理演習Ⅰ	86	98			66	100			152
情報処理演習Ⅱ	74	93	2	50	66	100			142
海外文化研修	1	100	2	100	7	100	2	100	12

教養教育の効果を測定・評価するため、平成30年度から「教養教育 学習成果の自己評価」を導入し、毎年年度末に実施している。令和6年度も継続して年度末に行った。これは本学の共通教育科目に関係する能力・適性の変化について、1年次学生には入学時と年度末時点、また、2年次学生には卒業時点について、1の「大いにそう思う」から4の「そう思わない」までの4段階で回答してもらうものである。

令和6年度「教養教育 学習成果の自己評価」の結果

＜学科別回収率＞

令和7年1月

学 科	学年	在籍数(人)	回答者(人)	回収率(%)
キャリア開発総合学科	1	127	114	90
	2	156	130	83

	合計	283	244	86
保 育 学 科	1	67	65	97
	2	86	71	83
	合計	153	136	89
全 体		436	380	87

令和6年1月

学 科	学年	在籍数(人)	回答者(人)	回収率(%)
キャリア開発総合学科	1	196	167	85
保 育 学 科	1	88	83	94
全 体		284	250	88

【評価段階】 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

項目	評価段階	令和6年度1年生 (入学時の能力・適性)				令和6年度1年生 (後期終了時の能力・適性)			
		キャリア		保育		キャリア		保育	
		人	%	人	%	人	%	人	%
①自他を大切にして、周囲と協働することができる。	1	23	20	24	37	27	24	21	32
	2	67	59	33	51	66	58	35	54
	3	12	11	3	5	10	9	5	8
	4	12	11	5	8	11	10	4	6
②自分の適性・能力を高めようと普段から努力を続けている。	1	21	18	18	28	23	20	13	20
	2	63	55	39	60	66	58	42	65
	3	21	18	4	6	15	13	6	9
	4	9	8	4	6	10	9	4	6
③ものごとに主体的に取り組むことができる。	1	19	17	18	28	19	17	12	18
	2	64	56	36	55	63	55	44	68
	3	22	19	6	9	21	18	5	8
	4	9	8	5	8	11	10	4	6
④社会で役立つ幅広い知識・教養をもっている。	1	16	14	9	14	17	15	6	9
	2	55	48	38	58	61	54	44	68
	3	34	30	14	22	28	25	10	15
	4	9	8	4	6	8	7	5	8
⑤社会で活用できるコミュニケーション能力をもっている。	1	19	17	15	23	19	17	16	25
	2	54	47	34	52	57	50	37	57
	3	29	25	13	20	27	24	9	14
	4	12	11	3	5	11	10	3	5

【評価段階】 1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

項目	評価段階	令和5年度1年生 (入学時の能力・適性)				令和6年度2年生 (後期終了時の能力・適性)			
		キャリア		保育		キャリア		保育	
		人	%	人	%	人	%	人	%

①自他を大切にして、周囲と協働することができる。	1	34	25	21	27	40	31	19	27
	2	75	56	51	65	69	53	43	61
	3	13	10	6	8	10	8	2	3
	4	12	9	1	1	11	8	7	10
②自分の適性・能力を高めようと普段から努力を続けている。	1	27	20	15	19	26	20	16	23
	2	79	59	50	63	77	59	45	63
	3	17	13	13	16	18	14	5	7
	4	11	8	1	1	9	7	5	7
③ものごとに主体的に取り組むことができる。	1	29	22	14	18	30	23	15	21
	2	70	52	52	66	74	57	45	63
	3	23	17	12	15	15	12	6	8
	4	12	9	1	1	11	8	5	7
④社会で役立つ幅広い知識・教養をもっている。	1	21	16	15	19	30	23	10	14
	2	73	54	46	58	70	54	43	61
	3	29	22	17	22	20	15	13	18
	4	11	8	1	1	10	8	5	7
⑤社会で活用できるコミュニケーション能力をもっている。	1	20	15	16	20	28	22	12	17
	2	69	51	47	59	70	54	47	66
	3	33	25	15	19	20	15	7	10
	4	12	9	1	1	12	9	5	7

令和6年度「教養教育 学習成果の自己評価」の結果はおおむね良好であったと考えている。このアンケートでは各指標で卒業時の学生の成長が確認されることが望ましい。本学では長くそれを確認してきたが、令和5年度においては必ずしもそれが確認できなかった。特に保育学科では一部の指標において後退(回答1と2微減、減少)の結果もあり、令和6年度の結果が注目されたが、結果的には両学科共に令和4年度以前の結果が再び得られ、本学の教養教育が適切に機能していることが確認された。

令和5年度入学生の卒業時点での改善・成長について記述する。質問項目①は、主に建学の精神を学ぶ「聖和総合教育」と「人間と仏教」に係る質問である。「1 大いにそう思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合学科では入学時に109名(81%)、卒業時に109名(84%)の微増であった。保育学科では入学時72名(92%)で、卒業時62名(88%)の微減であった。保育学科の微減のパーセンテージは前年度結果同様である。なお8割を超える卒業生が自他を大切にする志向をもっているが、本学の教育でそれがさらに深められなければならない。

質問項目②は学び続ける姿勢、質問項目③はものごとに取り組む積極的な姿勢を問うもので、学生たちが地域で活躍していく原動力となる能力・適性を確認するものである。質問項目②で入学時点と卒業時点に「1 大いにそう思う」「2 そう思う」と回答した学生はキャリア開発総合は106名(79%)から103名(79%)へと変化なく、保育学科は65名(82%)から61名(86%)に微増している。

質問項目③では、入学時点と卒業時点で「1 大いに思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合学科は 99 名(74%)から 104 名(80%)へと 6 パーセントの増加、保育学科は 66 名(84%)から 60 名(84%)で割合に変化がなかった。

質問項目④は、共通教育科目で幅広い教養を身につけられたか評価するものであるが、入学時点と卒業時点で「1 大いに思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合学科は 94 名(70%)から 100 名(77%)へと 7%の改善、1 については 9 名 7%増があった。保育学科生は 61 名(77%)から 53 名(75%)と微減であった。

質問項目⑤は、協働のために不可欠な円滑なコミュニケーション能力を問うものであるが、両学科で令和 5 年度から引き続き大きな成果が確認できた。入学時点と卒業時点で「1 大いに思う」「2 そう思う」と回答した学生は、キャリア開発総合は 89 名(66%)から 128 名(79%)へと 10%改善し、1 については 8 名、7%増であった。保育学科でも 63 名(79%)から 61 名(83%)へと微増、成果を確認できた。教養の基礎的能力として必要性を感じながら学生が自信を持ってないでいるのがコミュニケーションであるので、この点で成果が得られたことは喜ばしい。

気になる点を付記しておく。保育学科では指標全般において「4. そう思わない」と答えた学生が入学時の 1 名から増加しており注目せざるを得ない。継続して注意していきたい。